

二〇二四年七月二六日

手入れせぬ庭に見つけし茗荷の子
散りて須臾群るる魚影や溪涼し
摩天楼ビル射抜くやに稲光

うつぎ
澄子
康子

二〇二四年七月二五日

釣人の影法師伸ぶ西日かな
朝蟬に急ぎ立てられて庭仕事
陽の温み残りし日傘たたみけり
残業の差し入れ土用鰻食ぶ
振り向けば出航の街大夕焼

澄子
うつぎ
康子
むべ
たか子

二〇二四年七月二四日

日盛りや日時計の針狂ひなし
診察の間にはや灼くる車椅子

千鶴
せいじ

二〇二四年七月二三日

骨切りの音小気味よし鱧料理
銚の列王朝絵巻さながらに
研ぎ終へし包丁試すトマトかな

もとこ
山椒
愛正

二〇二四年七月二二日

神苑の広さを思ふ蟬しぐれ

せいじ

二〇二四年七月二一日

風涼し蕎麦屋の縁の深庇
聞き分けて左右の耳の蟬しぐれ
トラックの下枝触れ行く夏木立
空蟬を集めし吾子の宝箱

かえる
うつぎ
むべ
ふさこ

二〇二四年七月二〇日

高々とセンターフライ雲の峰
こうのとり空に飛交ふ大青田

みきお
こすもす

毎日句会みのる選・二〇二四年七月二八日